

〈支部ニュースから〉 大阪大会に 参加して

●高校生の娘と参加

大阪で開催された全国大会に久しぶりに行ってきた。1日目の全体会には、高校生の娘も一緒に参加しました。東日本大震災後、初めてとなる大会、「つなげれば元氣、そんな大会に」という開催地大阪の思いが感じられる大会だったと思います。

なのはなホームの震災報告は、なかなか見えない障害をもつ人たちの状況や、復興に向けて奮闘されているようすが具体的に知ることができました。障害児のおかれている状況を調査し、ねばり強く活動している大阪の児童入部施設の報告、家平悟さんの記念講演などはパワーを感じ、「元氣な人が多い」という私の勝手な大阪のイメージを確信に変えました。

たくさんの方が集まった熱氣と若い参加者が多かったこ

とが印象的でした。娘は初めての全国大会を「ちよっと難しいお話もあったけど、わかりやすかったし、おもしろかった」と言っていました。

(愛媛支部日より)

●暑かった！ 熱かった！

大阪の夏は暑かった！（蟬の声からして勢いが違う！）そして熱かった！ 大会参加者は3000人、熱気や勢いを感じられる大会だった。

分科会では、インターネットをみて初めて参加した九州の中学校の先生がいた。4月から特別支援学級の担任になり、どう指導していいかわからないという悩みをもって参

加したそう。分科会に参加するなかで、二期からの展望がもてたようだった。そんな姿を見て、全障研の必要性をあらためて感じた。

(SSCさいたま)

アラウンド GOGO 55



環境激変！ 三木裕和

全障研大会の翌日、8月1日、永年勤めた兵庫県立出石特別支援学校を退職し、鳥取大学地域学部に着任しました。その日からあつという間の怒濤の二ヵ月。「忙しくて目が回る」ほどではありませんが、「事情がわからず、目が白黒」の状態です。一つの仕事をこなすのに、手慣れた先生の3倍は時間がかかっています。初心者の苦労です。

50歳代も半ばになっての環境激変は、なかなかスリリングです。大学官舎で夜中に目が覚め、いったいここはどこ

なのか、アイデンティティ喪失の恐怖も味わいました。ケーズ電機で安価な生活家電を買いたいのに、若い店員はいささか怪訝な面持ちで接してくれます。初めて買った携帯電話は、らくらくホンを勧められました。

時代を越えたバトンパスは私たちに向けられています。それを受け止め、次の世代に渡していきたい。鳥取の地で決意を新たにしています。

(というところで、さびしくなっ

当たり前のことですが、この土地にも、信頼できる人たちはちゃんといます。学校への不満をどうしたら平和的、前向きに解決できるのか、相談に来る重症児のお母さんたち。発達障害の子どもに家庭

この人たちと共同の取り組みを進めることが、私を気持ちよく送り出してくれた出石の同僚や子どもたち、保護者のみなさんに応えることにな

て泣きたくなることもあるけれど、なんとかかんとかやっております。これからもどうぞよろしくお願ひします

(鳥取大学地域学部地域教育学科発達科学講座准教授)

※「アラウンド55(ゴーゴー)」は、50代の会員によるエッセイコーナーです。